

市長記者会見記録

日時：2014年4月1日（火）午後3時～午後3時21分

場所：本庁舎2階 講堂

議題：市政一般

<内容>

（新年度の所感について）

司会： ただいまより定例の市長記者会見を始めさせていただきます。本日の内容は、市政一般となっております。

それでは、幹事社さんよろしくお願ひします。

市長： どうもこんにちは。よろしくお願ひします。

幹事社： 新年度始まって初日ということなんですけれども、去年の11月に市長に就任して約半年たって新たな年度を迎えて、新年度の抱負というかご所感を一言お願ひします。どういう一年にしたいかというのを聞きたいんですが。

市長： 今回、初めて編成した予算でありますから、その確実なる執行。それから、それをやりながら、次なる市民とのお約束に向けての歩みというものを始めたいと思っております。

（待機児童について）

幹事社： 今、言ったように市民との約束という意味では、待機児童の解消というのが、来年の4月1日付けでゼロということで、今年度は限りなくゼロという話なんですけど、この間、ちょっと聞いた話では、先々週、20日ぐらいで四百四十数人が残っているということなんですけど、現時点での限りなくゼロへの見通しというのは、どのような感じなんでしょうか。

市長： 数的にはとにかく日々、あれはたしか3月20日時点での数字だったと記憶していますが、以降、日々各区役所で職員が頑張ってくれておりまして、アフターフォローに努めているところですので、日々刻々とこの数字は動いていくと思いますが、目指しているとおおり、限りなくゼロに向けてしっかりとした丁寧な対応をそれぞれの職場にはお願ひしておりますので、それに沿って目標に向かってやっていきたいと思っております。

幹事社： この間の行革の委員会では、菊地副市長が、その440人の中の3分の1

ぐらいにはなるのではないかというような見通しを示していたのですが、限りなくゼロというのは、市長の中での認識ではどのくらいのことを限りなくゼロというのですか。

市長：ほんとうに限りなくゼロは限りなくゼロなんですけど、数字もほんとうに大切なことですけども、より希望に沿った対応ができるように丁寧にやっていきたいというのを、まずちゃんとやらなければいけない。ですから、平日の夜もあるいは週末の土曜日なんかも、なかなかまだコンタクトできていない人たちもいらっしゃるの、それに向けてコンタクトを全力でやっているところです。

幹事社：では、各社自由をお願いします。

記者：今の待機児童の話なんですけれども、今日ちょうど弊社のiJAMPに、福岡市が4月1日現在でゼロを達成したという記事が出ていました。それは去年の4月現在では六百数名いらっしゃって、政令市ワーストワンだった福岡市が達成したということなんですけど、それについて市長は。

市長：実は今、初めてその事実を知りましたが、すばらしいですね。まずは努力されてきた市長さんほか職員の皆さんに敬意を表したいと思います。私どももしっかり頑張れるように、倣って頑張りたいと思います。

(市制90周年について)

記者：先ほどの話と若干重複するんですが、今年は市制90周年ということで、これから色々と盛り上げていくこともあると思うんですけども、市長が目標に掲げられていることの1つに、市政の情報発信の強化というものがあると思うんですが、市制90周年というのは絶好のチャンスだと市長もおっしゃっていましたが、どのように新年度以降、市政の情報発信能力を高めていくか、うまいこと市民を巻き込んでいくか、今のところの現在でのお考えがあればお聞かせください。

市長：先日の定例局長会議でも少し私のほうから話をしたんですが、例えば市でロゴマークを使ってこういうのをやりますというのを、受け身ではなく、色々な市民活動をされているグループでありますとか、あるいは業界の団体だとか、市内で色々な活動をされていると思います。そういう方々に、みんなで市制90周年を祝って、かつ、自分たちが町をつくっているんだよという、まさに主体的な盛り上げをやっていただくために、こちらから色々なところに出向いて一緒にやりましょうというお願いを積極的にやっていこうということを局長会議でも言わせていただきましたし、それを全員に周知徹底してくれということをお願いしました。そういったことをきっかけ

にして、全員で、市民みんなで盛り上げていきたいと思っています。

記者： 情報発信関係のスタッフの顔ぶれも変わったようなんですけども、それも今、市長がおっしゃったようなことの戦略のうちの1つという理解でいいのですか。

市長： これからぜひ皆様にも色々な形でアドバイスをいただきたいと思っていますが、どのような方式で情報発信すれば市民の方々にしっかりと情報が届くのかということについて、私どももしっかり勉強してまいりますし、ぜひ皆様からもアドバイスをいただければと思っています。

（政治資金について）

幹事社： 国政のほうで、みんなの党の渡辺喜美代表が8億円の借入問題で大分世間を騒がしていますが、あの問題について市長も一政治家として、どのような所感を持っていらっしゃるのかということと、渡辺代表は辞任すべきだという声もありつつ、本人は個人的な借り入れだ、辞任の責任はないと言っているんですが、辞任についての有無というか、その辺はどのように感じていらっしゃいますか。

市長： 僕は常々、どこでも政治家の身の処し方というか、そういうものは自分で決めるべき話なので、ほかの人がとやかく言ってどうのこうのという話ではないと思っていますので、渡辺さんに限らず、みんな政治家としてのそれぞれの判断があるんだろうと思います。でも、8億円って借りられるものなんだなという率直な、何かびっくりした感はありましたけれども、お金持ちはいるもんですね。

幹事社： 市長は松沢さんの秘書をやられていて、実際の国会議員と接する機会も非常に多かったと思うんですけども、8億円という額が今、びっくりしたということを行っています、選挙以外で使われるものなのか。

市長： いや、ちょっとうかがい知れないというか、どんなものなんでしょう。そういう政党の代表みたいな立場になったことがないので、ちょっと想像が僕にはつきませんので、コメントは何とも言いようがないですが。

幹事社： 市長自身は例えば個人的な、ああいう形の政治資金収支報告書に載らないような借り入れというのは、たくさんしていらっしゃるんですか。

市長： いや、ないです。

（拉致問題について）

幹事社： この間、日本と北朝鮮の政府間協議が、拉致問題に対して協議を継続するという方向になりましたが、横田さんがいる川崎として、一方でミサイルとかあった

りしますけれども、どういう思いでしょうか。

市長： とにかく一步でも前に進んでほしいというのが、横田夫妻の願いでありますし、私を含めた川崎市民の願いだと思っていますので、何とか少しでも進んで欲しいなど強く願っています。

（統一地方選について）

記者： すいません、まだ若干気が早いんですけれども、来年に統一地方選があつて、川崎市にあつては川崎市議選があります。自民党さんは第一次公認を発表して、ほかの党もぼちぼち準備を進めているということなんですが、今後市議選に向けた色々な活動が活発になっていくと思うんですけれども、市長は市長選を完全無党派で戦われましたが、市議選に対するスタンスというか、今のところの対応、あるいは応援とかの要請があつたらどうしようかといったところで、お考えがあれば聞かせてください。

市長： ちょっとまだ気が早いんだと思うんですけれども、応援の云々は来てから考えたいと思います。この前も都知事選挙のときに、ないと思いますけれどもと言ってほんとうになかったもので、あることを想定すると大恥をかきそうなので、あつたら考えますということ。

記者 ただ、市長選のときに、個人の立場として、現役の市議さん何人かが福田さんを支えられたと思います。そういう人たちは支えていくのかなという感じもするんですが、どうですか。

市長： いずれにしても、いまだ誰からも応援依頼はありませんので、来てから考えようかなと思っています。

記者： わかりました。

幹事社： 例えばその中で市議というよりも、福田さん自身が例えばローカルパーティー的なもの、言い方が合っているかわかりませんが、例えば川崎福田党みたいな、橋下さんみたいに大阪の維新の会ではないですけれども、そういった地域のローカルパーティーをつくって、福田さんの考えに賛同される方を擁立するとか、そういう方に推薦を出すというような動きは考えていらっしゃいますか。

市長： 少なくとも首長がローカルパーティーをつくって、そこで議員を擁立していくというのは、考え方としてはあるのかとは思いますが、私はそんなに好ましいとは思っておりません。やはり議会と首長のいわゆる二元代表というところもあるので、みずからが先頭に立ってという話は、私は好ましいとは思っておりません。

幹事社： ただ自分の考えを、予算でも条例でも何でもいいんですけれども、通すた

めにはそういった形のもので、それこそ大阪の橋下市長とかはそういう形でやってきたと思うんですけども、そういうスタンス、手法はとらないと。

市長：　そうですね。前も似たようなご質問だったと思いますが、いわゆる何か物事が通らなかったから選挙で白黒決着つけてやるみたいなのですね、そういう手法は私はとりませんというお話をさせていただいたと思います。まずは、市民の代表である一元の議会の方に、私をはじめとした行政の考え方をしっかりお伝えし理解してもらうというのが、最初にあるべき議会と首長の関係だと思っていますので、まずそこを丁寧にする事だと思っています。

（消費税率の引き上げについて）

記者：　今日から消費税が8%に上がりましたが、市長は何か買われましたか。たまたま報道を見ていたら、麻生財務大臣が『ゴルゴ13』を買われたとか、そういうのが出ていたので、かつては3%から5%にいったときに、竹下総理がネクタイを買われたというようなこともあったようですがという前提なんですけれども。

市長：　実は今年入庁される職員の発令を産振会館でやりまして、その後、徒歩で帰ったんですけども、帰っている途中でネクタイを買おうと思ったんですが、何と財布を忘れまして買えなかったというのがあって、まだ買えていません。

記者：　特に5%の昨日までに買い置きをされたとか、買いだめをさめたものは何かありますか。

市長：　ないです。

幹事社：　ご家族多いじゃないですか。

市長：　はい。

幹事社：　例えば子供用品だとかをどさっと買うとか何か。

市長：　それできのうも家内と話したんですが、あれだけ新聞やテレビなんかでも、今、買ってあまり意味がありませんよということをかかり言っているにもかかわらず、あれだけ買いだめに走るというのは、やはり生活のことを考えて、少しでもというマインドが、まだ非常に強いという裏返しだろうなと思っておりましたので、そういう意味では、まだまだ景気の回復の実感というか、お財布の中身がまだ増えていない中で、こういう行動に走ってしまう心理なのかなとは報道などを見て思っていました。

記者：　ということは、来年10月の10%については、市長は肯定的な考え方をお持ちでしょうか、否定的な考え方をお持ちでしょうか。

市長： 否定的とは言えませんが、買い控えみたいなものの反動でどれぐらい影響が出るのかというものを、僕もしっかりと注視していきたいとは思っていますが、10%云々という話は、またちょっと次元の違うことかなとは思っております。

記者： すいません、ちょっとよろしいでしょうか。 今、市長は消費税のお話で、景気の回復の実感がない中で買いだめをしてしまう心理が働くというお話ですけれども、川崎は非常に大都市で、ここがアップしてくれないと景気感というものが、日本のどこがアップしているんだろうという話になるんですが、例えばこの中の中小の企業ですとか、大企業も含めて、市長ご自身がお伺い、もしくは実感されている中で、アベノミクスの効果というのは、今、この川崎で実際に効果があらわれているのかどうかというのは、いかがお考えでしょうか。

市長： 新年から今までにかけて色々なお話を伺っておりますけれども、いわゆる雰囲気は非常にいいということをおっしゃるので、雰囲気はあるのだと思いますが、それが実際の形にまだ完全に達していないのではないかなというのは、私の聞いている範囲です。今年、消費税の影響が一定程度出るというのはもうしょうがないことだと思いますけれども、それがなるべく短期間で済んで、早く景気回復の道筋に向かえばいいなと願っておりますし、その景気の上がるポイントがこの川崎からであったら、なおうれしいなとは思っています。

(多摩川リバーサイド駅伝について)

幹事社： 市長とも会ったんですが、先週、私、多摩川リバーサイド駅伝で走らせていただいたんですが、人気の、市のイベントとしては多分非常に人数が多い中で、市長もスターターをやられたり、挨拶されていましたが、やはり若い市長になったということで、走ったほうがいいのではないかなと思うんですけど、それこそ私が市長ですと、たすきをかけてやると選挙活動にもなりますし。

市長： 選挙活動はだめでしょう。

幹事社： それこそ市長が変わったと、若い人になったんだと、前の人より30歳も若くなったんだというのをアピールするには、非常にいい場面だと思うんです。ただ鉄砲打つだけではなく、どうですか、来年はぜひ走るという。

市長： ここで公約すると大変なことになりそうですが、そういうお声もいただいておりますので、前向きにトレーニングしたいと思います。

幹事社： この半年間で市長自身は、夜の会合が多かったりとか、車に乗っての移動も多いので、非常に体調管理とか難しいと思うんですけども、何か健康維持のため

にやられていることはありますか。

市長： 新年度になりましたから、早朝に少し歩こうとか走ろうとかということをやろうと家内とおととい話していたところなので、頑張っけて起きたいなど。

幹事社： ちょうど来年、1年後にはですね。

市長： 頑張ります。

(花火大会について)

記者： すいません、自分が書いたので若干恐縮なんですけれども、狛江市長が川崎市と一緒に花火大会をやりたいとオファーを出しているようなんですけれども、世田谷と同日花火をやっている、なかなか狛江ともということは難しいと思うんですが、ただ、何らかの協力ができればいいなということを市長さんはおっしゃっているんですけれども、狛江さんとは話をされたのか、あるいはこの先何らかうまい形で連携していくという考えは今のところありますか。

市長： 流域の首長さんたちとは、うまくこれから連携をとっていく、同じ多摩川を共有している、みんなの共通の財産である多摩川をうまく活用していくということは重要なことだと思いますので、具体的に狛江市さんとどこまでできるかというのは、これからの話だと思うので、検討してみたいと思っています。

記者： 検討というのは、共催まで検討するということですか。それとも……。

市長： 具体でどこまでできるのかなというのは、それぞれ予算のこともあるし、警備上のこともあり、なかなか色々なハードルがあるようですので、少し検討したいなと思っています。

記者： わかりました。

幹事社： よろしいですか。

司会： よろしいですか。それでは、以上をもちまして市長記者会見を終了させていただきます。どうもありがとうございました。

市長： ありがとうございます。

(以上)

この記録は、重複した言葉づかい、明らかな言い直しや質問項目などを整理したうえで掲載しています。

(お問い合わせ) 川崎市役所総務局秘書部報道担当

電話番号：044(200)2355